広告 企画・制作／読売新聞社ビジネス局

がん治療の進展めざす

公益財団法人ＳＧＨ財団による第36回ＳＧＨがん研究助成金授与式、第６回ＳＧＨがん看護研究助成金授与式、第22回ＳＧＨ特別賞・ＳＧＨ看護特別賞授賞式が11月30日、ホテルグランヴィア京都（京都市下京区）で開催された。がんの基礎および臨床研究に顕著な功績を上げた２人に特別賞、がん看護に関する業績が顕著な２人に看護特別賞がそれぞれ授与され、その功績がたたえられた。また、がんの基礎および臨床研究に携わる若手研究者が行う優れた研究に対して贈られるがん研究助成が25人に、がん看護に関する優れた研究並びに臨床における新しい取り組みを対象とする看護研究助成が12人に贈られた。なお、今年度からがん研究助成は１件200万円に増額され、「２人に１人ががんになる」と言われる時代に先駆的な研究に励む若手研究者へ、確かなエールとなった。

■ あいさつ

分野超えた研究に期待

公益財団法人ＳＧＨ財団理事長 栗和田 榮一 氏

当財団のがん研究振興事業は、1989年に乳がんに関する研究に助成を行ったことに始まり、2003年度にはＳＧＨ特別賞とＳＧＨ看護特別賞を設けました。

本年のＳＧＨ特別賞は、世界のエクソソーム研究を牽引する方と、外科領域のみならず、がん治療の先駆けとなるべき研究に多大な貢献をされている方が受賞され、またＳＧＨ看護特別賞は、がん看護領域の発展に貢献された方と、完治の難しい疾患に長期的に取り組む団体が受賞されました。

オンライン化が進む中、対面交流の重要性が再認識されています。皆様にはぜひコミュニケーションを図っていただき、本日の出会いが専門分野を超えた横断的な研究に発展することを期待しております。当財団は今後も微力ながら、がん研究の進歩、発展に寄与してまいります。

SGH財団 公益財団法人ＳＧＨ財団は、国際的で活力ある社会の創造に向け、多面的かつ幅広く社会活動に寄与することを目的として、教育・文化、医療・福祉、経済・産業等の振興・発展を図るための研究及び事業への助成等を行っています。

■ 第22回SGH特別賞授賞式 ■

エクソソームの医療応用

落谷 孝広 氏
東京医科大学医学総合研究所・特任教授

細胞外小胞であるエクソソームによるがんの転移メカニズムの解明と診断治療への応用

この度の素晴らしい賞は、エクソソームという新しい研究領域を開拓している私を始め、国内の多くの若い研究チームの全員に、強いエールをいただけたものと受け止めております。細胞外小胞であるエクソソームは、まだ研究の歴史が浅く、解決しなければならない技術的な課題がたくさん残されておりますが、医学生物学の分野でも大変魅力的な研究対象であり、世界はエクソソームの医療応用のステージに入ってきておりです。

私ども既に国内で、血液中のエクソソームをすい臓がんなどの消化器疾患の早期診断に活用し始めています。さらに、どうやらエクソソームは、がん細胞の転移に重要な役割を果たし、その作用因子はマイクロＲＮＡであることも分かりつつあります。今後まずます、がんの診断や治療領域にエクソソームが活躍することが期待されます。

栗和田理事長らは、もっとグローバルな、領域を超えた研究を望むとの力強いお言葉がございました。実際、エクソソームは我々哺乳動物だけではなく、植物、昆虫、バクテリア、海洋生物など全ての地球上の生物種が持つ、恒常性を維持するシステムだと考えられます。おそらくエクソソームは進化の過程でも重要な役割を果たしたことが予想できます。またそのエクソソームの総量が様々な疾患の原因になっているようです。我々は、エクソソームが基礎生物学だけでなく、健康のトータルケアといった領域を超えた分野にも将来発展するものと信じて、今後も着実に研究を進めてまいりたいと思います。

患者の求める治療開発を

北川 雄光 氏
慶應義塾大学医学部外科学・教授

食道癌に対する集学的治療、低侵襲治療の開発研究

私が医学部生だった1980年代前半、がん遺伝子、がん抑制遺伝子という概念が提唱され、21世紀にはがんを撲滅できているのではとの期待も高まり、私自身もがん研究・診療に携わりたいという希望を抱きました。当時、固形がんの治療は外科的切除が主でしたので、消化器外科医としてがん治療医のキャリアをスタートしました。

80年代後半の外科医は、患者さんの予後を改善することを目指して拡大手術に挑戦していましたが、一方で合併症や術後障害に苦しむ患者さんの姿にジレンマを感じていました。特に私の専門である食道がん治療は、長時間に及ぶ手術を必要とし、術後合併症との闘いも壮絶でした。そうした中で90年代に患者さんへの負担が少ない内視鏡外科手術が登場しました。当初は内視鏡外科手術をがんに対する高難度手術に応用することは危険であると考えられていましたが、さまざまな技術の進歩により精密な安全性、確実性が高い手術の発展を目指しています。食道がん手術においても胸腔鏡手術が開胸手術に勝るとも劣らない標準手術であることが臨床試験で証明できました。また、非外科的治療の目覚ましい発展により、初診時切除不能の患者さんに対しても化学療法や放射線治療などでがんを縮小させたのちに、根治的な外科手術を行うことも可能となりました。80年代に夢見たがんの撲滅はいまだ成し遂げられておりませんが、がんからの生還、がんとの共生は、少しずつできるようになってきました。本日、助成金を受けられた若い先生方と一緒に、これからも患者さんが求めるがん治療の開発に邁進してまいりたいと思います。

■ 第22回SGH看護特別賞授賞式 ■

リンパ浮腫 予防とケアを支援

服部 聖子 氏
滋賀医科大学医学部附属病院リンパ浮腫外来 代表者
滋賀医科大学医学部附属病院・副看護部長

リンパ浮腫患者のセルフケア支援を提供する体制の整備と継続

当院は「信頼と満足を追求する全人的医療」を理念に、先進のがん治療はもとより、がん患者さんたちにとのような支援ができるのかを常に多職種で考え、支援を形にしてきました。その一つがリンパ浮腫外来です。

国立大学病院として初めての試みとして外来を開設した当時、「命が助かったのだから手足が腫れていても我慢しなさい」というようなことを言われて悲嘆に暮れる患者さんもおられました。その方々に伴走する役割として、人材育成と診療体制を整備しつつ、県内外他施設からも患者さんを受け入れ、当外来を継続してきました。そうしたニーズから教わる中で、やはり予防の観点が大事だと考えるに至り、リンパ浮腫になるリスクのある段階からリンパ浮腫予防指導やセルフケア指導を始められる組織体制を構築し、リンパ浮腫重症化の予防に寄与してまいりました。

先日、コロナ禍で中止していたリンパ浮腫患者さんの交流会を4年ぶりに開催できました。そこでは開設当時から通っておられる患者さんやそのご家族、そしてセラピストたちがファミリーのような雰囲気でお互いの立場を理解でき、これからも前向きに生きていこうと励まされる実現に向けた地域包括ケアシステムの一翼を担う高度急性期病院として、今まで培ったノウハウを十分に活かしながら、多様なニーズに対応できる看護提供体制の構築に創意工夫し、貢献していけたらと思っております。

その人らしい日常 構築するために

雄西 智恵美 氏
大阪歯科大学看護学部・学部長

治療・療養過程にあるがん患者のセルフケア促進のためのアプローチ視点の明確化に関する研究
※欠席のため、代理出席：鈴木久美・一般社団法人日本がん看護学会理事長

がん患者さんにとって治療や療養に関する意思決定や心身の健康管理は大きな負担になることがあります。その人らしい日常生活を構築するためのセルフケア支援の視点として、現状に適応するための「ストレスコーピング」、不安や恐怖心を克服する心的エネルギーとなる「Ｈｏｐｅ」、その人の価値観・生き方が反映された治療への同意を含んだ能動的な姿勢である「納得」をテーマに、同僚や院生たちと研究に取り組んできました。これらはがん看護には不可欠なケアの視点であり、今後は実践の場で活用できるよう研究を進めていく必要があります。

がん医療の現場は年々高度化、複雑化しており、研究の推進とともにがん看護の人材育成も重要です。看護は、知識、技術はもちろんのこと、自分の存在自体をケアの道具として使うことに独自性があり、看護職として「揺って立つところ」を基礎教育から育んでいくことが大切だと思います。これからも微力ながら人材育成にも力を尽くしていきたいと考えています。

■ 第36回SGHがん研究助成金授与式

氏名／所属研究機関等	研究課題
坂橋 耕太氏 国立がん研究センター先端医療開発センター免疫トランスレーショナルリサーチ分野・ユニット長	泌尿器科がんの免疫チェックポイント阻害薬耐性機構の解明
糸永 英弘氏 長崎大学病院細胞療法部・講師（副部長）	蛋白質メチル化酵素ＰＲＭＴの網羅的相互作用解析による急性骨髄性白血病の治療標的の探索
井上 大地氏 大阪大学大学院医学系研究科臓器再生外科学講座がん病理学教室・教授	ＳＥＴＢＰ１変異を有する難治性白血病の病態解析と治療応用
内原 脩貴氏 慶應義塾大学薬学部分子腫瘍薬学講座・助教	化学放射線治療時に生じるＤＮＡ損傷依存的な翻訳変化を介したネオアンチゲン産生経路の解明と医療シーズの開拓
大島 健司氏 兵庫医科大学医学部病理学分子病理部門・教授	大腸がんの代謝の可塑性を標的とする新規がん治療法の開発
大原 悠紀氏 名古屋大学大学院医学系研究科生体反応病理学・特任助教	オミクス解析を用いた膵管腺癌におけるがん・間質の分子・代謝サブタイプの解明
片山 勇輝氏 京都府立医科大学大学院医学研究科呼吸器内科学・助教	腸内細菌叢と免疫微小環境のクロストークから紐解く肺がん免疫療法の革新的効果予測バイオマーカーの開発
加納 嘉人氏 東京科学大学（東京医科歯科大学）臨床腫瘍学分野・講師	ＡＩディープラーニングとＲＮＡパネル解析を用いた胆道癌プレシジョンメディシンの基盤研究
雁金 大樹氏 東京科学大学（東京医科歯科大学）血液内科・特任准教授	成熟Ｂ細胞リンパ腫の起源探索と疾患モデル構築
川口 庸氏 滋賀医科大学呼吸器外科・講師	肺がん手術後に増加する単球を介した転移再発メカニズムの解明と周術期治療への応用
昆 彩奈氏 東京大学医科学研究所先端医療研究センター血液・腫瘍生物学分野・准教授	胚細胞遺伝子変異を伴う骨髄系腫瘍の遺伝学的・分子生物学的な特性の解明
佐伯 龍之介氏 京都大学大学院医学研究科腫瘍生物学講座・助教	クローン性造血による発がんリスクを標的とした新規予防医療の基盤構築
佐々木 謙介氏 九州大学大学院医学研究院病態修復内科学・助教	ＣＲＩＳＰＲスクリーニングを用いた急性リンパ性白血病の化学療法抵抗性メカニズムの解明
七條 敬文氏 熊本大学大学院生命科学研究部血液・膠原病・感染症内科学講座・助教	ＨＴＬＶ－１ ｂＺＩＰ ｆａｃｔｏｒタンパク質の時間空間的局在変化によるＡＴＬ発がん機構の解明と新規治療標的の探索
渋谷 里紗氏 東北大学大学院医学系研究科内科病態学講座呼吸器内科学分野・助教	非小細胞肺癌の病態における翻訳機構の解明とＲＮＡ修飾に着目した新規治療法の開発
種子島 時祥氏 九州大学大学院医学研究院泌尿器科学分野・助教	腎細胞がん上に発現するＭＨＣクラスⅡをかした免疫抑制メカニズムの解明と新規標的療法の開発
鍋倉 宰氏 愛知県がんセンター研究所腫瘍免疫応答研究分野・分野長	次世代ナチュラルキラー細胞療法の開発に向けた基盤技術の構築
福島 啓司氏 東京科学大学（東京医科歯科大学）病院泌尿器科・助教	癌関連線維芽細胞を標的とした難治性尿路上皮癌の克服：近赤外光による間質リモデリング治療
福村 和宏氏 藤田医科大学研究推進本部腫瘍医学研究センター・講師	ＲＮＡスプライシング制御機構の破綻が引き起こす抗がん剤耐性獲得機構
平島 一輝氏 岐阜大学高等研究院・Ｇ－ＹＬＣ特任助教	新規代謝阻害剤によるアミノ酸・糖代謝を介した転移阻害メカニズムの解明
松本 知訓氏 大阪大学大学院生命機能研究科細胞ネットワーク講座倍数性病態学研究室・准教授	倍数性を標的とした新たな難治癌治療戦略の創出
水野 桂氏 京都大学医学部附属病院泌尿器科・助教	ｃｆＤＮＡメチル化解析に基づく進行前立腺癌のクローン進化の解明と新規診断治療戦略の開発
森田 覚氏 慶應義塾大学医学部外科学教室（一般・消化器）・助教	大腸癌肝転移における線維化誘導性免疫変容と転移再発メカニズムに関する研究
山岸 良多氏 大阪公立大学大学院医学研究科病態生理学講座・講師	老化肝星細胞の排除による腫瘍促進性ＳＡＳＰ抑制法の開発
吉田 彩冊氏 東邦大学大学理学部生物分子科学科・講師	Ｈｅｄｇｅｈｏｇシグナルの新規活性化メカニズムを応用した薬剤耐性がん細胞の克服

（50音順）

■ 第6回SGHがん看護研究助成金授与式

氏名／所属研究機関等	研究課題
阿部 麻里氏 一般社団法人次世代看護教育研究所・主任研究員	リアルワールドデータを用いた乳がん患者におけるＣＶポート造設の実態及び血管外漏出発生の予測因子の探索
板垣 栞氏 岡山大学病院周術期管理センター・看護師	高齢大腸がん手術患者における長期的なＡＤＬとＱＯＬ変化の指標としての術前機能評価の有用性の検証：単施設前向き観察研究
沖田 翔平氏 金沢大学附属病院看護部・看護師	頭頸部がんへの化学放射線療法中のセルフケアと口腔内環境が口腔粘膜炎の進行に及ぼす影響
桐明 あゆみ氏 久留米大学医学部看護学科成人看護学・教授	外来化学療法を受けている高齢がん患者の家族ニーズ調定尺度の開発―構成概念の検討とアイテムプールの作成―
工藤 榛香氏 地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪国際がんセンターがん対策センター・生物統計職	患者報告型アウトカムに基づくがん患者の相談支援業務の満足度評価に関する調査研究
栗本 珠衣氏 国立がん研究センター中央病院看護部・看護師	甲状腺がん患者を対象としたレンバチニブパスポートを用いた院内外多職種連携による治療支援の有用性に関する研究
小西 飛翔氏 名古屋大学大学院医学系研究科総合保健学専攻看護科学次世代育成看護学講座・大学院生（博士前期課程）	思春期成人形成期での血液・がん疾患経験が長期サバイバーに与える影響に関する研究
副島 尭史氏 神戸大学大学院保健学研究科看護学領域・准教授	思春期・若年成人期がん経験者の「健康管理と仕事の両立」における尺度開発および関連要因の探索
田墨 惠子氏 大阪大学医学部附属病院・看護師長／神戸女子大学大学院看護学研究科・大学院生（博士後期課程）	経末梢静脈がん薬物療法におけるカテーテル留置の因難性予測尺度（ＤＰＩＶＡ－ＣＰ）の開発と検証
田中 雅子氏 独立行政法人国立病院機構京都医療センター・がん薬物療法看護認定看護師・副看護師長	ウエイテッド・プランケット使用による外来化学療法を初めて行う成人患者が抱く精神的緊張の緩和効果：ランダム化クロスオーバー試験
中村 江衣氏 日本医療大学保健医療学部看護学科・助教・がん看護専門看護師	がん性悪臭へ次亜塩素酸水を用いたケアの確立
畑崎 華織氏 東京科学大学（東京医科歯科大学）大学院保健衛生学研究科在宅・緩和ケア看護学分野・博士前期課程	非接触型機器を用いた終末期がん患者に対する看護ケアの可視化に関する研究

（50音順）

【第６回ＳＧＨがん看護研究助成金受領者代表】

栗本 珠衣 氏 国立がん研究センター中央病院看護部・看護師

甲状腺がん患者を対象としたレンバチニブパスポートを用いた院内外多職種連携による治療支援の有用性に関する研究

我々の研究は、医師、薬剤師、看護師、栄養士だけでなく、門前薬局の薬剤師と連携し、がん患者さんとご家族のサポートを行うという新しいチーム医療の形が有用であるかを示す点がポイントです。こうしたチーム医療では、臨床実地での配置が多い看護師が核となり調整を行うことが重要です。連携を通じて幅広い知識を習得し、より質の高い看護実践へつないでいくことに期待しています。患者さんに安全かつ有効ながん治療を提供できるような体制を構築し、当院だけでなく日本全国の臨床のレベルを上げるようながん看護実践につなげるべく努力してまいります。

【第36回ＳＧＨがん研究助成金受領者代表】

井上 大地 氏 大阪大学大学院医学系研究科病理学講座 がん病理学教室・教授

ＳＥＴＢＰ１変異を有する難治性白血病の病態解析と治療応用

様々な医療の進歩にかかわらず治すことができない予後不良な白血病に対し、一つの遺伝子変異に注目しております。私はこの遺伝子変異の解釈の誤りに気付き、それを実験的に証明していこうと、研究助成に応募させていただきました。

昨今の研究を取り巻く状況は、円安やインフレも相まって非常に厳しいものがあります。私も2019年に米国から帰国して神戸で独立した当時、国の科学研究費助成申請が全く通らない中、ＳＧＨ財団に採択いただいて何とか研究をつないでやることができました。がん研究の推進が与えられた使命と考え、今後とも精進してまいります。

公益財団法人SGH財団 第23回市民公開講座

前立腺がん
進歩する治療とあなたの選択

日時 令和7年3月2日(日) 13:00開演 | 15:45開演予定
※オンライン配信のため、会場での開催はございません。

オンライン視聴 無料（要事前申込）

申込締切 2/25(火)

男性のがんで罹患数が最も多い前立腺がんは、近年、待機療法、手術療法、放射線治療という局所治療法、ホルモン治療・薬物治療という全身治療法、いずれも大きく進歩し、それに伴い選択肢も広がっています。
今回の市民公開講座では、エキスパートにより各治療法の最新情報をわかりやすく紹介するとともに、個々の患者に合った治療法の選択の在り方についても皆様方と一緒に考えます。

講演

待機療法、手術療法についての最新情報
京都大学大学院医学研究科 泌尿器科学教授
小林 恭 氏

放射線治療（X線、粒子線、小線源治療）についての最新情報
京都大学大学院医学研究科 放射線腫瘍学・画像応用治療学教授
溝脇 尚志 氏

ホルモン治療、抗がん剤など全身治療についての最新情報
東京慈恵会医科大学泌尿器科 教授
木村 高弘 氏

患者から見た前立腺がん治療について
NPO法人膀胱友倶楽部 理事長
武内 務 氏

パネルディスカッション
パネリスト 小林 恭氏 溝脇 尚志氏 木村 高弘氏 武内 務氏
モデレーター 平岡 眞寛氏 小西 郁生氏
コーディネーター 京都大学名誉教授 宇治徳洲会病院顧問 平岡 眞寛氏
京都大学名誉教授 国立病院機構京都医療センター名誉院長 小西 郁生氏
司会 フリーアナウンサー 植月 百枝氏

オンライン視聴（インターネット配信）
右記QRコード、下記サイトで、オンライン視聴の受付をいたします。
sgh-lect23.com

受付が完了した方には、ご登録いただいたメールアドレスにご視聴用URLをお送りいたします。お問い合わせ、お申し込みいただいた個人情報は、本市以外には使用いたしません。
オンライン視聴にかかる通信料は参加者様にてご負担ください。

お問い合わせ先：市民公開講座運営事務局
TEL: 075-334-5757
10時～17時（土・日・祝日を除く）
事務局メールアドレス: info@sgh-lect23.com

公益財団法人SGH財団 〒600-8009京都市下京区函谷鉾町79ヤサカ四条烏丸ビル9階
TEL: 075-255-9310 FAX: 075-255-9311 e-mail: info_cr@sgh-foundation.or.jp
URL: https://www.sgh-foundation.or.jp
SGH財団 検索
主催：公益財団法人SGH財団 後援：公益財団法人日本がん協会 協力：SGホールディングスグループ